

## 2007年度 事業報告

総 会	1回	2007年	7月
理 事 会	5回	2007年	6月, 9月, 10-11月 (書面), 12月, 2008年 3月
評議員会	1回	2007年	7月

### 委員会報告

#### 総務委員会

片田範子理事長、及川郁子副理事長、添田啓子（会計）三宅一代（庶務）

事務局：田村佳士枝（会計）、太田千寿（庶務）、永瀬由紀子（庶務）

##### 1. 総務委員会の新組織

学会全般の運営に関する事項を調整する組織として、総務委員会が組織化された。総務委員会は、会計と庶務をもちそれぞれが学会の運営を円滑に行うために事務局をおき対応している。

##### 2. 日本小児看護学会の運営方針についての検討

###### ・学会事務業務委託

学会事務業務の円滑化を目指し、4社の入札を行った。大学生協学会支援センターが落札。業務内容等を打ち合わせの上、12月1日に契約が成立した。

###### ・総務委員会開催

年3回（2007年 9月, 12月, 2008年 3月）

##### 3. 総会・評議員会・理事会の運営

#### 編集委員会

中村伸枝(委員長)、荒木暁子、臼井雅美、小野智美、小川純子、加藤令子、佐野美香、古谷佳由理

##### 1. 編集委員会の交代

2007年8月より新体制8名による編集委員会が組織された。

##### 2. 編集方針の決定

学会誌の編集方針を明文化し、投稿者および査読結果を尊重した編集の進め方について合意した。査読結果による論文種別と投稿者の希望する論文種別が異なる場合には、査読結果を返却する際に、投稿者の今後の意思を確認する書類を作成し、Faxで返信してもらうように変更した。

##### 3. 学会誌の発行

17巻1号は1900部を発行し、17巻2号は現在編集中。

##### 4. 掲載論文について

学会誌17巻1号は16編(原著6編、研究報告6編、実践報告2編、資料2編)の投稿があり、査読を経て12編(原著1編、研究報告4編、実践報告2編、資料5編)が掲載、2編が倫理的問題により不掲載、2編が次号以降に先送りとなった。

学会誌17巻2号は13編(原著5編、研究報告5編、総説1編、健やか親子21プロジェクト報告1編)の投稿があり、現在1回目の査読を終了し論文修正の段階である。

##### 5. 専任査読者の更新について

専任査読者の任期満了に伴い、専任査読者の更新登録と、学会の理事・評議員の推薦を得た新たな専任査読者の新規登録作業を行なっている。18巻1号より新体制の専任査読者となる。

## 6. 投稿規程の一部改正

査読をスムーズに行なうための投稿手続きの一部改正と、今後の CINAHL や MEDLINE への登録を見越して全ての論文において英文要旨掲載可とする改正を行なった。

## 7. 年間 3 回発行に向けた調整

年間 3 回発行に向けて編集スケジュールや予算の調整を行なった。2008 年 9 月発行後、3 回発行へ変更する。これにより 1 号は 8 月末〆切で 3 月発行、2 号は 12 月末〆切で 7 月発行、3 号は 4 月末〆切で 11 月発行となる。(789 字)

## 広報委員会

濱中喜代 (委員長)、三輪百合子、長 佳代、込山洋美、田久保由美子、村松久江

### 1. ニュースレターの編集・発行

第 31 号と第 32 号を編集・発行し学会員・関連学会に発送した。

第 31 号 (2007 年 10 月)

主な記事は①新理事長挨拶 ②新理事メンバーの紹介 ③第 17 回学術集会関連記事  
④看護系学会等社会保険連合会に関する活動の報告 ⑤第 2 回吉武香代子研究助成公募  
⑥第 18 回学術集会関連記事など

第 32 号 (2008 年 3 月)

主な記事は①第 18 回学術集会関連記事 ②健やか親子 21 推進事業 「保育関連職種との連携プロジェクト」報告 「特別支援学校において医療的ケアを実施する看護師の機能と専門性の明確化に関するプロジェクト」報告 ③新理事体制での委員会の活動内容の紹介など

### 2. ホームページの更新・充実

今年度よりホームページの更新・充実が広報委員会の活動内容になった。新理事体制になったことを受けて、新理事長の挨拶および理事会メンバーの紹介を入れ、ホームページについて関連した部分の大幅な追加修正を行った。学会員はもとより広く社会の方々が活用できるように、定期的に更新を行い、できるだけ最新の情報を提供するように努めた。また次年度に向けてホームページの充実を図るため、専門家に相談し助言を受け、具体策を検討した。

### 3. リーフレットの作成についての検討

広報活動の一環として広く関連団体や関係職者に本学会を理解してもらう為と学会員の拡大を図るための 2 つの目的でリーフレットを作成することを検討した。理事体制が代ってもある程度の期間使用できるような内容で作成することとし、作成は次年度に予定した。

### 4. その他

広報委員会のメールアドレス : Jschn\_koho@yahoo.co.jp を開設した。

## 学術交流推進活動委員会

筒井真優美 (委員長)、長田暁子、尾花由美子、江本リナ、川名るり、草柳浩子、松尾美智子、山内朋子

### 1. 学術交流推進活動委員会申し合わせ

本委員会の目的等、活動に関して申し合わせを作成し、理事会で承認された。

### 2. 地方会

(1) 地方会の開催

2007 年 6 月 16 日 (土) に中四国地方会が開催され、運営費の一部として日本小児看護学会より

20万円の補助を行った。

(2) 地方会に関する申し合わせの一部改正

補助金の執行方法に関し、申し合わせの一部改正について理事会で承認された。

### 3. 吉武香代子研究助成

(1) 第1回(2007年度)研究助成 以下の3件に総額30万円の助成が行われ、研究終了・決算報告書が提出された。この3件の研究結果は、2008～2009年度の間に日本小児看護学会学会誌または学術集会において発表される予定である。

①課題名：社会福祉施設における医療的ケアの実態と看護の課題

研究者：立松生陽(社会福祉法人きそがわ福祉会 きそがわ作業所)、市江和子(日本赤十字豊田看護大学) 助成額：10万円

②課題名：フォンタン手術の早期退院プロトコールにおける家族の満足度調査～外来・病棟・手術室の連携した看護を目指して～

研究者：萩原綾子、権守礼美、相原慎(神奈川県立こども医療センター) 助成額：10万円

③課題名：腎疾患にてステロイドパルス療法を受ける子どもの援助

研究者：中村美保子、山中香葉(宮崎大学医学部附属病院) 助成額：10万円

(2) 第2回(2008年度)研究助成 審査を経て、以下のとおり3件に総額30万円の助成が行われることが理事会で承認された。

①課題名：小児がんを体験した子どもが語る『自分の病名を知りたい』と思うとき

研究者：伊藤久美、遠藤実、海老原理絵、三谷明佳、矢通純子(昭和大学藤が丘病院) 助成額：10万円

②課題名：化学療法を受けている子どもへの感染予防行動に対する意識の変化と看護

研究者：笹木忍、蔵田弥生、三登友紀子(広島大学病院) 助成額：10万円

③課題名：症状コントロールが必要な小児がんの子どもへの外来でのケアの体制づくりに向けて

研究者：有田直子、田中純子、仲上玲子、渡辺智子、気賀沢寿人(神奈川県立こども医療センター) 助成額：10万円

(3) 第3回(2009年度)研究助成 2008年11月30日(日)を応募締め切りとすることが理事会で承認された。

(4) 吉武香代子研究助成実施要綱の一部改正 助成対象者の義務である研究成果の発表期間に関して、実施要綱の一部改正について理事会で承認された。

### 4. 学術集会の抄録原稿の査読基準

日本小児看護学会学術集会の抄録査読に関する検討会が作成した査読基準について、前理事会で承認された。今期の理事会では査読に関して、学術集会側に一任する形式をとった。

### 5. 各関連団体との連携

#### 業務検討委員会

蝦名美智子(委員長)、楢木野裕美、野中淳子、松岡真理

#### 1. 委員会の目的

業務検討委員会は、小児看護技術を診療報酬に結びつけ保険点数化することを主な役割とする。従って委員会では「どの小児看護技術を点数化できるか」を検討する。

#### 2. 活動報告

平成20年の診療報酬改定に向けて日本小児看護学会からは「CT・MRI検査のプレパレーション」

と「小児救急トリアージ」を申請した。申請のルートは、各看護学会から申請された看護技術は看保連\*で集約され、中央社会保険医療協議会へ提出され、専門部会（診療報酬調査専門組織・医療技術評価分科会）で検討される。20年度改定に向けて内保連\*\*・外保連\*\*\*・看保連から681件の技術が提出され、1次評価を経て233件に絞られた。「CT・MRI検査のプレパレーション」は1次評価を通過し「保険適用する優先度が高いと考えられる新規技術(案)」の「その他の新規技術」に位置していたが、最終的にはどちらも点数化に至らなかった。点数化に結びつかなかった理由は公にされていないが、EBMに基づいたデータ、例えばその技術がある場合とない場合ではどのような違いがあるのかという資料が十分ではなかったと考えられている。

### 3. 今後の活動

次の診療報酬の改定は平成22年であり、その改定に間に合わせるには20年12月までにデータ収集と分析が終わり、21年早々に初回の申請書を作成する必要がある。業務検討委員会は「CT・MRI検査のプレパレーション」と「小児救急トリアージ」の再提出を考えており、EBMに基づいた調査を開始するが、本年12月までに不足データを補充することは難しいと判断しており、24年の改定に向けてしっかりしたデータ収集を行う予定である。

注) 看保連\* : 看護系学会等社会保険連合 内保連\*\* : 内科系学会社会保険連合  
外保連\*\*\* : 外科系学会社会保険連合

## 倫理委員会

中野綾美（委員長）、内田雅代、草場ヒフミ、鈴木真知子、濱田米紀、益守かづき

本年度から、新たに委員会として発足し、6名で委員会活動をスタートした。倫理委員会では、小児看護学領域で抱えている多くの倫理的課題について、専門職としてどのように子どもの権利を擁護していくことができるのかについて、会員とともに取り組んでいきたいと考えている。今年度は、2回の委員会を開催し、委員会の申し合わせ事項、および今期の委員会の活動について検討し、以下のように決定した。

### 1. 所掌事項

- ①小児看護の臨床場面で看護師が直面する倫理的課題に関する事項
- ②社会で起きている子どもの権利を脅かす倫理的課題に関する事項
- ③小児看護における研究に関する事項
- ④小児看護における倫理教育に関する事項
- ⑤その他、理事会から付託された倫理に関する事項

### 2. 今期の活動方針

- ①日常的な臨床場面での倫理的課題を検討する。  
子どもに対する倫理的課題を整理し、日常のケア場面で子どもの権利をどのように擁護していくかについて考え、実践する上で役立つ指針を作成する。
- ②臓器移植法の改正に関する社会の動きに対する委員会としての考えを発信する。  
平成16年に出された「臓器移植法改正に関する日本小児看護学会の見解」を基盤として、子どもの移植が行われている病院施設の現在の状況を把握した上で、学会としての考えを発信する。
- ③子どもを対象に研究を行う場合の倫理的配慮を検討し提示する。  
子どもを対象として研究を行う場合、子どもの権利を擁護するために配慮しなければならない点を整理し、提示する。
- ④学術集会で、交流集会等を開催し委員会活動を報告するとともに、会員との相互啓発をはかる。

① ③の委員会活動の報告をベースにして、会員相互に研鑽できる企画をもうける。  
現在は、これらの活動方針に基づいて活動を行っている。

### 健やか親子 21 推進事業委員会

奈良間美保（委員長）、伊藤龍子、二宮啓子、平林優子、丸光恵、村上泰子（事務局）

#### 1. 健やか親子 21 推進協議会への参加

11月開催の全体会、及び年3回開催の幹事会（課題3）に参加し、学会の取組みを報告した。

#### 2. プロジェクトの活動推進と課題の検討

各プロジェクトと委員会の位置づけを明確にし、その成果を学会としての見解と健やか親子 21の推進、学会員への還元につなげるべく検討した。

##### 1) 小児慢性疾患患児の在宅療養のためのケア提供者の教育に関する事業推進

＜特別支援学校において医療的ケアを実施する看護師の機能と専門性の明確化に関する研究プロジェクト＞

担当：勝田仁美，内田雅代，鈴木真知子，奈良間美保，二宮啓子，宮内環

特別支援学校への看護師配置の現状を明らかにすることを目的に 2006 年に実施した全国調査の分析と新人看護師を支援するガイドラインを作成した。看護師の多くは非常勤雇用である中、4割強が緊急事態に直面するなど、児の安全確保と看護師の役割発揮の諸問題が見出され、研修会等により看護師を支援する必要性が見出された。その成果は学会ニュースレターに掲載し、2008 年度学術集会で発表予定である。

##### 2) 小児の入院環境向上のための活動

＜保育関連職種との連携に関するプロジェクト＞

担当：飯村直子，江本リナ，川口千鶴，中村伸枝，日沼千尋，平林優子

病棟における看護師と保育士の連携の現状を明らかにすることを目的に、医療保育学会所属者を対象とする調査を行った。その結果、保育士の専門性を発揮するために看護師とのコミュニケーションの場の保障が課題であることが示唆された。看護師と保育士の共同企画によるシンポジウムなどの意義が見出された。その成果は本学会誌、医療保育学会誌に投稿中、2008 年度学術集会にて発表予定である。

##### 3) 小児救急看護

＜小児救急医療における看護師のトリアージの有効性に関する研究プロジェクト＞

担当：伊藤龍子，日沼千尋，林真由美，林幸子，工藤真奈美

2007 年 12 月～2008 年 2 月に、国立成育医療センターとの共催で 3 日間のトリアージ研修会を 2 回開催した。参加者の所属施設への研修内容の導入を目指して医師と共に参加する方法をとり、看護師 7 名、医師 6 名の参加者を得た。本研修会に対する参加者の反応は肯定的であった。この成果は学会ニュースレター、本学会誌に掲載予定、国立成育医療センター研究所年報、評価委員会資料、英文紀要に投稿している。